

11. 未来・歴史を引き継ぎ新たな時代へ



神戸税関本関 (平成 11 年 3 月 10 日竣工)

神戸税関の 3 代目庁舎は、旧本関庁舎を新庁舎の一部として有効活用し、地上 10 階、地下 1 階、塔屋 4 階の庁舎で、神戸港のシンボル的建築物となっている。

神戸港開港 150 年を迎えた神戸税関は、3 代目である神戸税関本関庁舎を中心に六甲アイランド出張所、摩耶埠頭出張所、ポートアイランド出張所の 3 出張所で神戸港の貿易に携わっている。

神戸港は平成 7 年の阪神・淡路大震災により未曾有の被害を受けたものの平成 9 年に神戸市は復興宣言をし、港湾物流のコンテナ化の進展や船舶の大型化などに対応するため岸壁の拡張工事を行い、ポートアイランドと六甲アイランドに 15m の水深コンテナターミナルを整備した。平成 16 年には大阪港とあわせ阪神港としてスーパー中枢港湾に指定され、翌 17 年に神戸港は指定特定重要港湾に指定された。さらに平成 20 年には神戸港、芦屋・西宮港、尼崎港、大阪港、堺泉北港が一開港化され、平成 22 年には国際コンテナ戦略港湾に選定されたことに伴い、国・港湾管理者・民間の協働体制が構築され、国際ハブ港としての機能強化を図った。現在神戸港は、コンテナ船、自動車運搬船など年間約 7,000 隻の船舶が入港している。

そのような中税関には大きな三つの使命が課されている。一つ目は「安全・安心な社会の実現」であり、薬物、銃器をはじめ、テロ関連物品、知的財産侵害物品等、社会の安全安心を脅かす物品等の密輸出入を一層効果的に水際で取り締まるため、内外関係機関との連携や情報交換を積極的に行うなど、近年の多様化した密輸事犯に対応した取締体制等整備に取り組んでいる。膨大なヒトとモノの流れの中で経済成長を阻害することなく、水際取締りを的確に行っている。二つ目は「適正かつ公平な関税等の徴収」であり、税関で徴収する関税、消費税等は日本の国税収入の約 1 割を占めており、関税等の適正な賦課及び徴収を確保するため、積極的な情報提供を通じて、適正な申告が可能となる納税環境を整備するとともに、積極的な諸施策を講じている。三つ目は「貿易の円滑化」であり、貿易の秩序維持と健全な発展を目指すに当たっては、適正な通関を確保しつつ、簡便な手続きと円滑な処理を実現する必要があり、貿易のセキュリティ確保と円滑化の両立を実現するため AEO 制度を導入している。また、税関では、手続きやシステム運用等の改善を行うなど、利用者の利便性の向上等を通じた貿易の円滑化の取り組みを行っている。

開港 150 年の節目にあたり、2019 年にはラグビーワールドカップの神戸開催や 2020 年の東京オリンピック、パラリンピック開催を控え、入国者の一層の増加が見込まれる中、神戸税関においては、兵庫県警察や海上保安庁ほか関係機関と連携・協力しながら、適正な税関業務の運営に取り組んでいる。